

足利義満六百年御忌記念

京都五山

禪

の文化展

Zen Treasures from the Kyoto *Gozan* Temples

2007年7月31日(火)～9月9日(日)
東京国立博物館・平成館(上野公園)

Tokyo National Museum・Heiseikan (Ueno Park)



関連記事掲載・番組での紹介のお願い

2007年7月31日(火)から9月9日(日)まで、東京国立博物館(台東区上野公園)におきまして、「京都五山 禅の文化」展を開催いたします。
つきましては、貴媒体にて本展の案内や内容紹介等、お取り上げいただきますよう、お願い申し上げます。
なお、お手数をおかけいたしますが、同封のアンケート用紙にご記入の上、ファクスにてご返送いただければ幸いです。
広報用に出品作品の写真(カラー紙焼き・JPEGデータ)をご用意しております。ご希望の場合は、別紙のお申し込み書にてFAXでご請求ください。また、ご取材のために撮影を希望される場合や、その他ご不明な点や資料等のご要望がございましたら、下記広報事務局までお問い合わせください。

同封アンケートのご返送および本展に関するお問い合わせ先
「京都五山展」広報事務局 TEL:03-3639-0725 FAX:03-3664-3833
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル4F

〔開催概要〕

展覧会名	足利義満六百年御忌記念「京都五山 禅の文化」展
会場	東京国立博物館 平成館(台東区上野公園13-9)
会期	2007年7月31日(火)～9月9日(日)
開館時間	9:30～17:00 ただし、会期中毎週金曜日は20:00まで、土・日曜日は18:00まで(入館は閉館時間の30分前まで)
休館日	月曜日〈ただし、8月13日(月)は開館〉
主催	東京国立博物館、日本経済新聞社
特別協力	大本山相国寺
観覧料	一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学・高校生900円(700円／600円)、 ※中学生以下は無料 ※()内は、前売り／20名以上の団体料金 ※障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。
前売り	電子チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、 JR東日本の主なみどりの窓口・びゅうプラザなどで、5月20日から7月30日まで発売予定。
交通	JR上野駅公園口・鶯谷駅より徒歩10分 東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅、千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分

お問い合わせ(一般) 03-5777-8600〈ハローダイヤル〉
公式ホームページ kyoto-5zan.jp (5月下旬公開予定)

テーマ講演会「京都五山の文化」全4回連続(いずれも時間は13:30～15:00) [当日先着順、事前申し込み不要]

- 第1回 6月9日(土) 演題:「五山派の彫刻」 講師:東京国立博物館 出版企画室長／浅見 龍介
- 第2回 6月30日(土) 演題:「京都五山の絵画」 講師:東京国立博物館 特別展室長／救仁郷 秀明
- 第3回 7月14日(土) 演題:「室町幕府外交と京都五山」
講師:北海道大学大学院文学研究科准教授／橋本 雄
- 第4回 7月28日(土) 演題:「五山僧と学芸」 講師:東京国立博物館 情報管理室長／田良島 哲

記念講演会[事前申し込み制、申し込み多数の場合抽選]

- ①「京都五山の歴史と文化」 8月4日(土) 13:30～15:00 講師:東京国立博物館 出版企画室長／浅見 龍介
 - ②「禅の山河」 8月25日(土) 13:30～15:00 講師:臨済宗相国寺派管長／有馬 頼底師
- ※会場は、テーマ講演会および記念講演会とも東京国立博物館・平成館大講堂

巡回予定 福岡会場 2008年1月1日(火)～2月24日(日) 九州国立博物館



「本展を観ずして、禅は語れない！」京都五山とゆかりの寺院から中世の禅文化の名品200件を迎えてご覧いただきます。

■寺外初公開となる相国寺の本尊像ほか、本展覧会を機に新たに行なわれた調査による貴重な成果を紹介します。

■鎌倉時代の肖像彫刻の代表的作品である、無関普門坐像と癡兀大慧坐像が揃って東京で初公開される、またとない機会。ほかにも禅宗寺院の彫刻が多数(約20件余)出品されます。

■禅僧が末期(まつご)におよんで筆をとった遺偈(ゆいげ)は圧巻。会期を通して5点が展示される、初の機会となります。

作品を通してうかがわれる禅僧の生に対する厳しい姿勢は、遠い昔のものでありながら、現代の我々の心にじかに訴えかけてきます。さあ Let's ZEN!



展覧会のみどころ

京都五山とは、京都にある禅宗寺院の大寺5つを選んで第一位から五位まで格付けた制度で、中国にならったものです。

五山は、時期により変遷がありますが、至徳3年(1386)足利義満が創建したばかりの相国寺を第二位とし、南禅寺を「五山之上」にした時に確定しました。足利氏は禅宗を支援すること厚く、室町時代は禅宗の文化が大きな流れとなって、日本文化の主流となりました。この展覧会では、保守的な土地柄の京都に新しく中国からもたらされた禅宗が定着するまでをたどる第1章から2章、足利将軍家と禅僧の関係をみる第3章、五山僧の文芸活動、画僧の描いた水墨山水などを展示する第4章、禅宗寺院に安置された仏像、法会(ほうえ)に用いられた仏画などを集めた第5章という5つの章で構成します。第1、2章では禅僧の気迫に満ちた風貌に触れることで強い意志、厳格な修行を偲ぶことができるでしょう。また、死の直前の苦しい息のもとで筆をとった遺偈(ゆいげ)にもご注目ください。14世紀以降、将軍や各地の守護、貴族などがさかんに禅宗寺院を建立しました。彼らが魅かれたのは、宗教としての禅だけでなく、禅がもたらした中国の文化でした。ただし、当時の中国の文化すべてを受容したわけではありません。王朝文化の伝統をもつ京都が新来の中国文化をどのように受け容れたかというのがこの展覧会のみどころです。

※原則として、作品解説中特に所在地表記のない寺院は京都所在です。

第1章 兼密禅から純粹禅へ

今でこそ京都には数多くの禅宗寺院がありますが、栄西が中国から帰って禅宗寺院を建立しようとした時には、保守的な大勢力である延暦寺などの反対にあいました。栄西は鎌倉に赴き、北条政子、源実朝等の帰依を得て再び京に上り、幕府の出張所、六波羅探題の隣に建仁寺を建立しました。また、京都の貴族でも鎌倉幕府に近い九条道家は、中国留学から帰って博多の承天寺にいた円爾(えんに)を招いて東福寺を建立しました。これらの寺院では中国の禅を実践する一方で、密教や天台学もあわせて修めることで辛うじて保守勢力に許容されました。鎌倉時代後半、龜山天皇が禅に傾倒し、南禅寺を開いてからは純粹な禅が定着していきました。



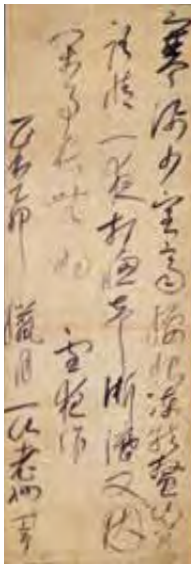
①重要文化財 無関普門坐像 鎌倉時代・13世紀／龍吟庵

東福寺開山円爾の弟子で東福寺第三世、南禅寺の開山となった無関普門(1212-91)の肖像彫刻。目に疾患があったらしく、疣(いぼ)を含め個性的な表情が写實的に表わされている。肖像画は今回出品される南禅寺のものほか、数点が知られる。画像では三角形の目がやや誇張して描かれ、この彫像の方が真実味がある。この像を安置した壇の内部には石塔が置かれ、塔の下に銅製の骨蔵器が埋められていた。今回は、この骨蔵器も出品される。



②重要文化財 癡兀大慧坐像 鎌倉時代・14世紀／愛媛・保国寺

東福寺開山円爾の弟子で東福寺第九世癡兀大慧(1228-1312)の肖像彫刻。肥満し、にらむような表情は今回出品される願成寺の肖像画と共通するが、風貌はやや異なる。同じく出品される願成寺の遺偈のたうつような筆致とあわせて、気骨ある人柄が偲ばれる。



いっさんいちねい ぼくせき

③重要文化財 一山一寧墨蹟(雪夜作)

鎌倉時代・正和4年(1315)／建仁寺(けんにんじ) (8月21日(火)から展示)

一山一寧(1247-1317)は元(げん)の外大使節として来日、一時その意図を疑われ幕府によって幽閉されるが、後に執権北条貞時や後宇多上皇の帰依を受けて、建長寺や南禅寺の住職を務めた。文人・能筆としても知られ、後世の禅宗の文芸に大きな影響を与えた。この墨蹟は自作の詩一編を記したもので、正和4年(1315)12月の年紀がある。一山一寧の草書を代表する作品である。

第2章 夢窓派の台頭

夢窓疎石(むそうそせき)は、鎌倉時代末期に北条氏に重用され、当時政権がめまぐるしく交代したにもかかわらず後醍醐天皇、足利尊氏・直義の帰依を受け続けました。尊氏が後醍醐天皇の冥福を祈るために建立した天龍寺の開山として夢窓を招いて以後、足利家は夢窓一門の外護者として絶えず支援を続けました。そのため夢窓派は大いに繁栄し、京都五山の主流となったのです。相国寺を創建した足利義満は、その塔頭(たっちゅう)鹿苑院の院主を全国の禅宗寺院全体の統率者(僧録)とし、夢窓の弟子春屋妙葩(しゅんおくみょうは)をその初代としました。以後鹿苑院の院主は夢窓派がほぼ独占しています。僧録は将軍の外交や宗教政策の顧問のような役割をも果たしました。また、夢窓の弟子義堂周信(ぎどうしゅうしん)と絶海中津(ぜっかいちゅうしん)は五山文学の双璧と言われ、文化的にも大きく貢献しました。

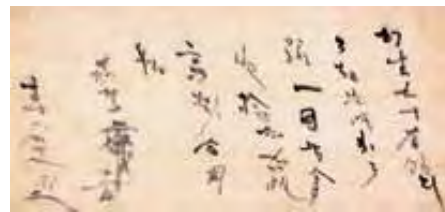


む そう そ せき ぞう む とうしゅうい

④重要文化財 夢窓疎石像 無等周位筆 自賛

南北朝時代・14世紀／妙智院(みょうちいん) (8月21日(火)から展示)

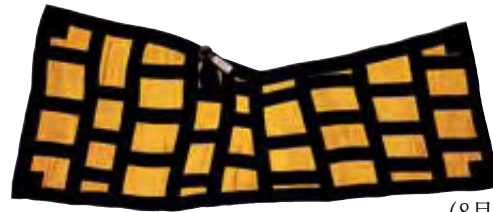
南北朝時代の禅宗界を代表する名僧、夢窓疎石(1275-1351)の肖像画。この画像は数ある夢窓像のなかでも堂々たる大きさと精緻な描写から、最も優れた作品とされる。作者の無等周位は夢窓疎石の弟子で、当時、彼の描いた夢窓像はたいへん高く評価された。また十牛図や障壁画も描いたが、彼の作品で現存するのはこの夢窓像だけである。無等周位は南北朝時代の京都五山で活躍した禅僧画家を代表する人物で、本画像は貴重な遺品である。



(8月19日(日)まで展示)

⑤重要文化財 春屋妙葩墨蹟 遺偈 嘉慶2年(1388)／鹿王院

春屋妙葩(1311-1388)は、夢窓疎石に師事し、天龍寺や相国寺の住職などをつとめた。公武の帰依を受け、幕府の五山制度の確立に寄与するなど室町時代の臨済宗発展の基礎を築いた禅僧である。この墨蹟は死去の2日前に書かれた遺偈で、字は歪み墨書はかすれるが、禅僧が末期の力をふりしぼって弟子に伝えた言葉として、見る者を圧倒する。



(8月28日(火)から展示)

⑥九条袈裟 田相 黄地四菱入り入子菱繋菊花文綾、堅条・横堤・緑・四天一濃紺地雲龍丸文綾 元時代・13-14世紀／慈濟院

これまでほとんど展示されることのなかったこの袈裟は、天龍寺塔頭・慈濟院の開山である無極志玄(むきょくしげん・1282-1359)所用と伝える。田相(でんそう)部は四菱を収めた入子菱繋の間に菊の花をあしらった黄地綾で、堅条・横堤・緑は黒味をおびた非常に濃い紺地に雲と龍の丸文を表わした綾が用いられている。特筆すべきは、同院所蔵の無極志玄の頂相(肖像)に、この袈裟とほぼ同じ文様が描かれていることである。無極志玄が着用していた袈裟が、現在も遺されていることはたいへん貴重である。

第3章 将軍家と五山僧

鎌倉時代に中国を模倣して作られた寺格である五山は、夢窓疎石とその門下が室町幕府と密接な関係を築くと、国家的制度として整備されました。第3代将軍足利義満は、五山の寺格を再編成し、相国寺に僧録司(そうろくす)を設けて、全国の臨済宗寺院の統括を図りました。この章では、幕府による寺院の統制を示す文書や、相国寺の建立に関する記録などを展示します。また、五山僧は、漢文の素養を生かして外交文書を作成するとともに、自ら使節となって外国に赴きました。外交史料集を編纂した瑞溪周鳳(ずいけいしゅうほう)や、明への使節となった策彦周良(さくげんしゅうりょう)など中世外交の担い手に関する資料をあわせて紹介します。



あしかが よしみつ ぞう

と さ ゆきひろ

(8月19日(日)まで展示)

⑦重要文化財 足利義満像 土佐行広筆

応永15年(1408)足利義持賛 室町時代・15世紀／鹿苑寺

図上に室町幕府4代将軍義持による応永15年6月の賛があり、6月25日の義満七七日(四十九日)仏事に使用された画像と考えられる。剃髪して僧綱縹(そうこうえり)の衣を着け、肩に横披(おうひ)と袈裟をかけて上畳に坐り、手に檜扇と数珠を持つ法体像である。賛は北宋の徽宗(きそう)皇帝の三回忌に大慧宗杲(だいえそうこう)が行なった説法を引用したもので、書家・画家・収集家として著名な徽宗皇帝に義満がなぞえられている。3代将軍、義満の肖像画の代表作である。

第5章 五山の仏画・仏像

禅宗では仏像などに対する礼拝より、自らの中にある仏性という「ほとけ」を見出すための修行を重んじます。そのため、禅宗寺院には仏像や仏画が少ないと言われてきました。しかし密教寺院に比べれば少ないものの、禅宗寺院も武将や貴族などの帰依を得て建立された寺院である以上、本尊像や護法神像、法会の際に堂に掛ける画像などは少なからずありました。その造形の対象は、「悟り」を重視するため、釈迦如来や羅漢、達磨、禅宗の祖師などが多くみられます。作風は中国の宋、元時代の作品に影響を受けた独特なものです。仏画では東福寺に住んだ明兆(みんちょう)、良全(りょうぜん)、また仏像では院派仏師と慶派仏師のうち特に康俊(こうしゅん)の活躍が目立ちます。中国風の受容が鎌倉に比べて限定的なところに京都の保守性がみられます。



(8月28

しゃ か に ら い ざ ぞ う か し ゃ う そ ん じ ゃ あ な ん そ ん じ ゃ り ゅ う ぞ う
⑫ 釈迦如来坐像および迦葉尊者・阿難尊者立像

南北朝時代・14世紀／相国寺

京都五山第二位相国寺の本尊像。京都五山では罹災のため、創建当初の本尊はすべて失われた。今、中世以前の像を本尊とするのは東福寺、万寿寺と相国寺である。この三尊像は、相国寺創建より早い時期の作であり、後世いずれの寺からか移されたものであろう。釈迦如来像は院派仏師の作とみられる。院派仏師は、天龍寺本尊像造立など禅宗寺院の造像に活躍した。寺外初公開。



かん ざ ん す れ い さい
⑬ 重要文化財 寒山図 霊彩筆

室町時代・15世紀／東京・大東急記念文庫(8月13日(月)まで展示)

岩陰の道を、風に吹かれながら歩む寒山が描かれている。霊彩は15世紀前半に活躍した画僧で、東福寺の画僧、明兆の弟子とみられる。仏涅槃図のような、大きな絵絹に岩絵具を塗って描く本格的な着色仏画を制作する一方、本図のようにすがすがしい、筆技の冴えわたる水墨画をいくつか残している。霊彩は、筆線的美しさでは、室町時代随一の画家といえるかもしれない。



(8月21日(火)から展示)

⑧ 重要文化財 明永楽帝勅書 明・永楽5年(1407)／相国寺

將軍足利義満は南北朝の合一を果たして国内の安定を確立すると、明に対して使節を遣わし、「日本国王」の称号を得て政権の国際的な認知と日明貿易による利益の確保を図った。この文書は、当時の永楽帝から義満に送られたもので、海賊の取り締まりに感謝し、遣使をねぎらって贈り物を託したことを述べている。龍を刷り出した大きな料紙と謹厳な文字が権威を示す。

第4章 五山の学芸

京都五山の禅僧たちは、宗教家や政策ブレーンとして活躍しただけではありません。彼らは南宋・元の禅林における詩文の流行に影響を受け、また中国禅林のみならず日本の禅林においても儀式で必要とされる法語や疏(しよ)などを作成するための修練として、中国の詩文や、儒学・老荘思想等に関わる思想書、歴史書などを研究し、あるいは自ら詩文を詠みました。このように中国の文学・学問・芸術を新文化として日本に導入し、あらたな文化を育む媒体となったのが五山僧たちであり、五山には如拙、周文、雪舟など、この時代の水墨画を代表する画僧も現われました。ここでは絵画の新様式としての水墨画や、五山僧の詩集・注釈書などを紹介します。



ちく さい どの しょ ず し ゃ う ぶん
⑨ 国宝 竹斎読書図 伝周文筆
竺雲等連序・江西龍派等五僧贊

室町時代・15世紀／東京国立博物館

本図は南禅寺の杲(こう)という禅僧が所持していた絵に、竺雲等連や江西龍派など、京都五山の名僧たちが詩文を寄せたもの。水墨の技法により大気や遠近が巧みに表現され、小画面にもかかわらず広々とした余韻のある空間が描き出されている。相国寺で活躍した周文は15世紀の水墨山水画の典型を作り出した禅僧画家で、雪舟や岳翁もその画風を継承している。周文筆と伝えられる作品は数多いが、本図は周文真筆の可能性が最も高いものである。

は ぼく さん す い ず せ っ し ゃ う とう しょう
⑩ 国宝 破墨山水図 雪舟等楊筆 雪舟自序、
月翁周鏡等六僧贊 室町時代・明応4年(1495)／東京国立博物館
(8月19日(日)まで展示)

い ん り ゅ う けん に ち ろ く
⑪ 蔭涼軒日録 室町時代・永禄10年(1567)／東京国立博物館

『蔭涼軒日録』は、僧録司が置かれた相国寺鹿苑院の住職の補佐役「蔭涼軒主」が代々記した公用の日記。政治的、社会的な事件をはじめ、人物の動向や文化事象に至るまで幅広い記述があり、室町時代の基本史料の一つである。東京国立博物館所蔵の写本は、もと仙台藩伊達家に伝来したもので、原本が関東大震災で焼失したため、室町時代にさかのぼる古写本として貴重である。

FAX 03-3664-3833 「京都五山展」広報事務局 行き

「京都五山 禅の文化」展に関するアンケート

●本展を記事・番組でご掲載いただけるでしょうか？

☐ はい

☐ いいえ ☐ 検討中(月 日ごろ確定)

●ご紹介いただける場合、いつ頃の発売／配付・放送で、どのような内容になりますか？

月 日発行(月号)・放送 未定／ 月 日ごろに決定する

掲載面(ページ)内容・番組名などをご記入ください。

(発行部数／ 放送エリア／)

●ご紹介いただける場合、写真はご使用になりますか？

☐ はい

広報用に写真(紙焼きおよびデータ)もご用意しております。
ご希望の場合は、別紙の写真借用お申込書にご記入の上、FAXにてご請求ください。

☐ いいえ (写真は使用せず、文字掲載のみ)

●ご紹介いただける場合、読者プレゼント用に招待券をご希望になりますか？

(5組・10枚まで)(写真付きでご紹介いただける場合は、10組・20名分までご提供いたします)

☐ はい ご希望枚数 枚

☐ いいえ

貴社名	
媒体名	
ご担当者名	
ご住所	〒
E-mail	
TEL	()
FAX	()

お忙しいところ、誠にありがとうございました。

なお、ご掲載頂いた場合は掲載紙・誌、または同録ビデオを広報事務局あてにお送りくださいますよう、お願い申し上げます。

京都五山 禅の文化

写真借用お申し込み書

FAX 03-3664-3833「京都五山展」広報事務局 行

写真ご使用に際してのご注意

- 広報用に写真（紙焼きおよびデータ）をご用意しております。
- ご希望の場合は、下記のお申込書にご記入の上、FAXにてお申し込みください。
- 写真をご使用の際には、作品名と所蔵先を必ず明記していただきますよう、お願い申し上げます。

使 用 写 真	ご希望の写真番号および種類に○印をお付けください。												
	写真 番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
希望写真の種類	☐ カラー紙焼き ☐ データ（JPEG）												
貴 社 名													
媒 体 名													
ご 担 当 者 名													
ご 住 所	〒												
T E L	()												
F A X	()												
E - m a i l													
掲載予定号(発売日) 放送予定日													
写真および データ到着希望日													

- 掲載記事・番組内容について、情報確認のためゲラ刷り・原稿の段階で下記の広報事務局までFAXにてお送りください。
- 写真をご使用後は、すみやかにご返却ください。
- お手数ですが、掲載誌・紙または同録テープを広報事務局までお送りくださいますようお願い申し上げます。